

姉妹交流ライブラリー

第一〇回韓中日三か国地方  
政府交流シンポジウムの  
開催について

(財)自治体国際化協会交流情報部交流親善課

本シンポジウムは、歴史的にも地理的にも密接な関係にある日本、中国および韓国相互の地方自治体相互の国際交流・協力をより一層促進するとともに、地方自治体国際交流機関相互の協力関係を強化することを目的に、一九九九年から三か国輪番制で毎年開催しています。

昨年度は奈良県で開催しましたが、今年度は、韓国・全羅南道において、二月四日（火）から七日（金）までの四日間の日程で韓国地方自治団体国際化財団および全羅南道の主催により開催されました。今回のシンポジウムの内容等について紹介いたします。

「第二〇回韓中日三か国地方政府  
交流シンポジウム」について

本シンポジウムは、「地域活性化による発展方案」をメインテーマとし、日本から五人、中国から四一人、韓国から一七五人、三か国全体で二六八人が参加しました。

初日の開会式においては、主催者側を代

表して韓国地方自治団体国際化財団の李相昊理事長の開会あいさつと、韓国全羅南道の朴峻瑩知事の歓迎のあいさつがあり、本シンポジウムの意義と歓迎の意が示されました。そして、中国国際友好城市連合会の陳昊蘇会長に続き当協会の香山充弘理事長のあいさつでは、「今回で二〇回目の記念すべき節目を迎えました。これまで韓中日三か国の国際交流の促進や相互の親善に大い



↑ シンポジウムの様子



に貢献してまいりました」と、このシンポジウムが大変有意義であると述べました。

二日目は、基調講演、各国自治体の主題発表、事例発表が行われました。

メインテーマに沿って韓国行政研究院長鄭用徳氏から「地域の活性化による発展方策について」と題する基調講演が行われました。

主題発表は各国から三人であり、日本からは下関市長の江島潔氏、中国からは揚州市の丁章华氏、韓国からは全羅南道行政副知事の朴在泳氏がテーマに関してそれぞれの自治体の先進的な取組みについての発表がなされました。

引き続き各国から三人ずつの事例発表が



↑ 視察の様子

行われ、日本からは山口市副市長の吉田正治氏、萩市長の野村興兒氏、南さつま市長の川野信男氏、中国からは竜泉市人民政府市長の梁憶南氏、中国共産党樟樹市委員会書記兼市長の黄玉剣氏、吉林省人民政府対外事務処主任の範飛氏、韓国からは韓国旌善郡首の劉昶埴氏、韓国昌原市長の朴完洙氏、麗水市長の呉炫燮氏より、これまでに実施した産業政策・文化交流等の先進的な取組みについての発表がなされました。

その後行われた討論会では、事例発表をベースにした意見交換が行われ、韓中日相互における交流を深めることができました。

三日目、四日目には視察が行われ、王仁博士遺跡地、靈岩陶器文化センター、道岬



↑ 討論会の様子

寺、順天樂安邑城、咸平菊香大展など百済文化発祥の地を代表する学術的・芸術的に魅力のある場所を巡り、参加者からも予想以上の好評を博しました。

## シンポジウムを終えて

これまでも日中韓三か国の地方自治体の間では、姉妹（友好）都市提携を結ぶなどのおおのが独自の交流を行ってきました。このような中、中央政府による交流とは異なる形での地方政府による相互理解や友好協力体制の強化がますます重要になりつつある今日、このように日中韓三か国の地方自治体や国際交流団体の関係者が一堂に会して、意見や情報を交換・共有することは大変意義深いものがあり、本シンポジウムが契機となつて、三か国の地方自治体や地域社会間の交流・協力がより一層、質・量ともに深まることを期待します。

来年度のシンポジウムは中国国際友好城市連合会の主催により中国・吉林省長春市で開催される予定ですが、これまでに中国、韓国と友好関係を築いてこられた自治体関係者、これから関係を築いていこうと考えておられる皆さま、また、このシンポジウムに関心をお持ちになられた方々にぜひともご参加いただきたいと思います。

日程などの詳細が決定し次第、各支部を通じてお知らせいたしますので、多くの方々のご参加をお待ちしております。